

令和6年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 陸前高田市国際交流協会 (都道府県：岩手県)

1. 当該地域の情報 (令和7年2月28日現在)

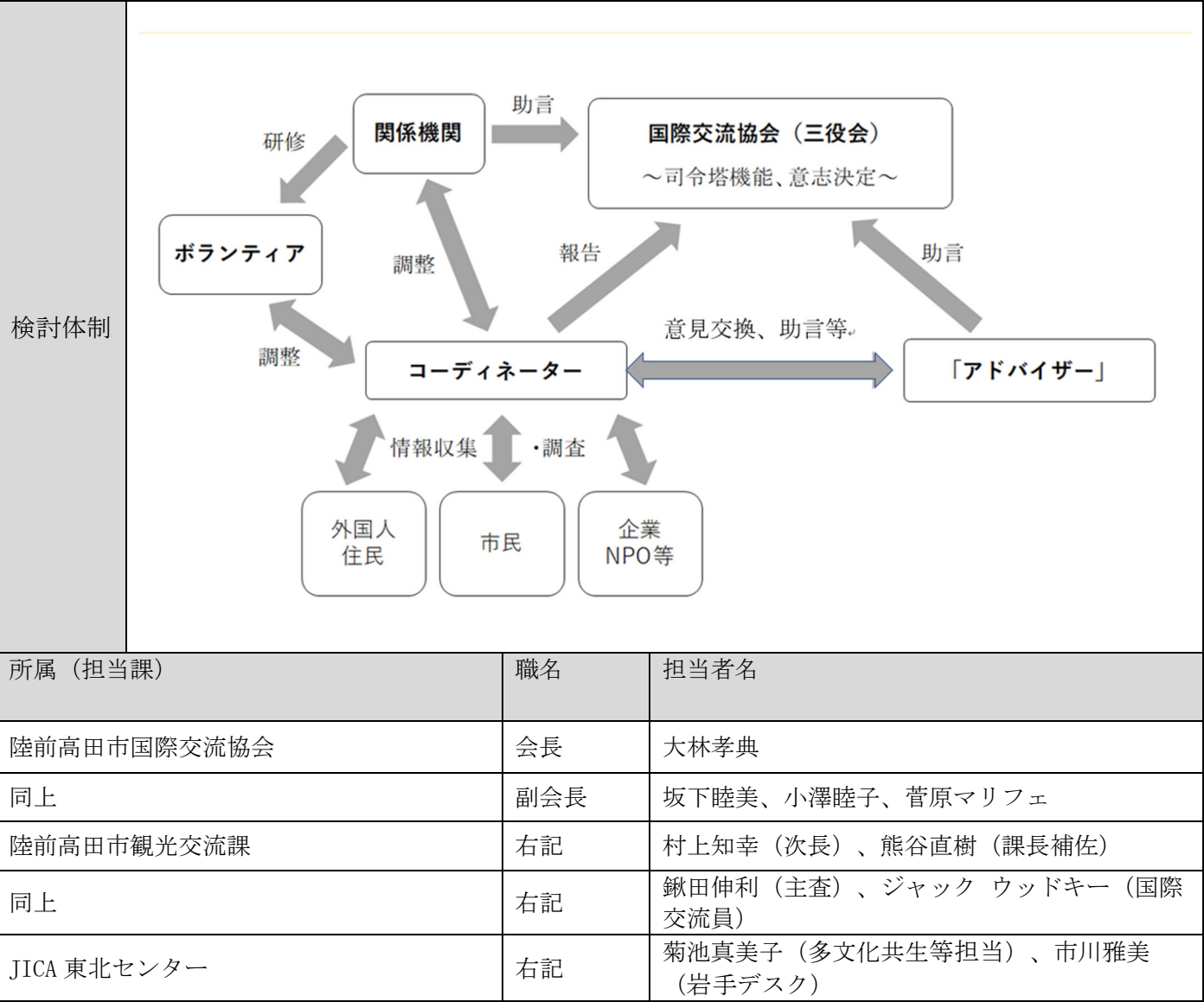
地域の課題	現在本市には、全人口の約1%に当たる180人程の外国人が居住している。そのうちの約6割を技能実習生・特定技能といった労働者が占めているが、こうした外国人材は人間関係がそれぞれの企業内などに留まることが多く、市民等との交流が限られた状況がある。また、行政や商業施設等の情報も多言語化が十分とは言えず、日本人の在住外国人に対する認識や理解も含めて、多文化共生社会の実現に向けて様々な課題がある。 地域の主要産業は農業・漁業、食品加工業等の第1次・第2次産業であり人材確保は重要な課題である。外国人労働者に対する需要は今後も高まっていくものと考えられる。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】179人 【外国人比率】1.04%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数(令和6年6月時点)】カンボジア48人、ベトナム42人、ミャンマー37人、フィリピン34人、中国21人、等 【在留資格(同上)】技能実習110人、永住者43人、特定技能22人、日本人の配偶者8人 【滞在年数・在留期間などの状況】 「永住者」の大半は日本人と結婚したフィリピン人、中国人女性等で、長い方は20～30年といった居住歴を有する。他方、カンボジア人、ベトナム人、ミャンマー人の殆どは「技能実習」「特定技能」で近年増加しており、滞在歴は数ヵ月から4～5年程度までとなる。
在住外国人の日本語教育の現状	・当協会が行う日本語教室以外に、本市で一定以上の規模で日本語教育(日本語教室)は行われていない。 ・なお、本市のシルバー人材センターに、教員OBと日本語指導を希望する外国人をマッチングする機能がある。また、技能実習生等を抱えた企業の中には、社内で独自の日本語指導などを実施している事業所もあると思われる。

2. 事業の内容

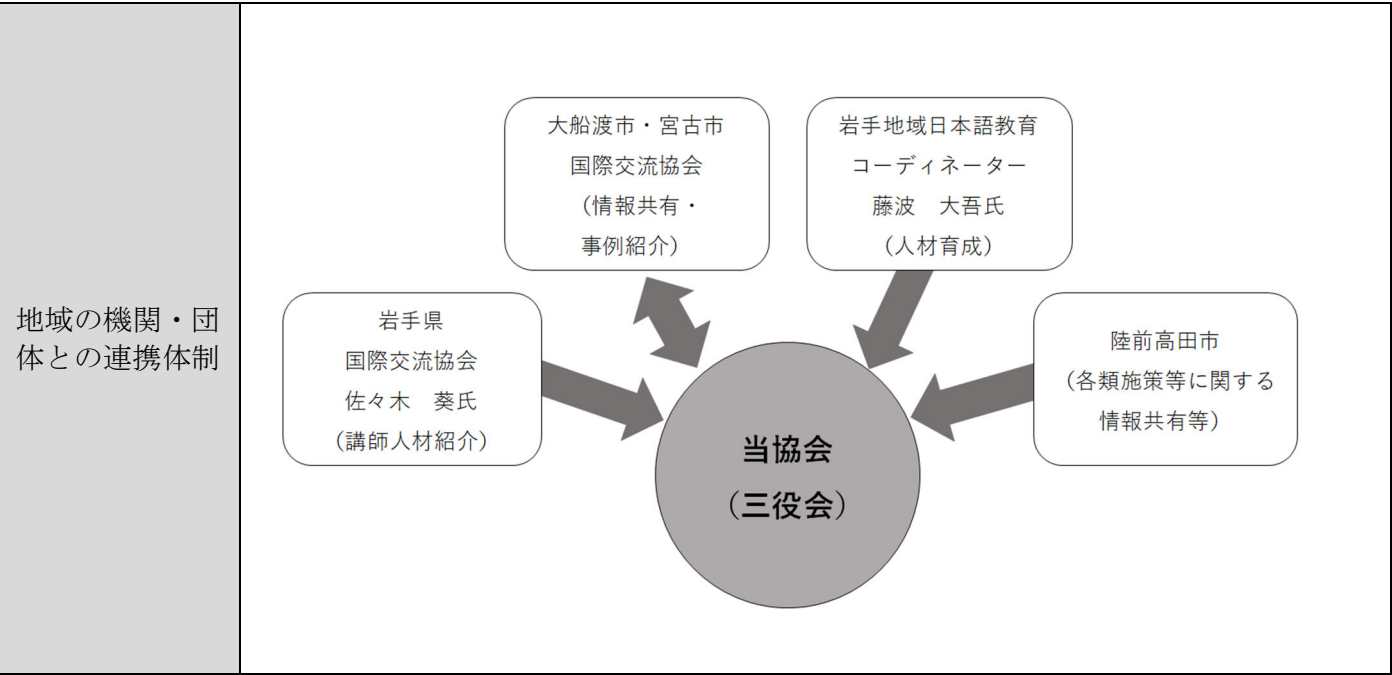
本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	在住外国人の多様なニーズを踏まえ、多くの外国人が集う日本語教室を運営する。日本語教室を地域の様々なコミュニティやリソースとつなげ、地域の外国人・日本人が出会う「多文化共生」の拠点の場になるよう発展させていく。 なお実施にあたっては、以下のポイントを重視する。 ・外国人が市民として生活するために、基本的な日本語を実践・習得する場 ・多文化共生・国際交流の拠点として、外国人と日本人、外国人同士が交流する場
事業の概要	(1) 継続的・持続的な日本語教室運営： 本プログラム初年度に検討・試行した教室の基本形を継続しながら、ニーズ調査の結果等を踏まえて必要な見直しを図った。他方で持続性の観点からは、コーディネーター、日本語サポーター(ボランティア)等のキャパシティーにも留意した。概要は以下のとおり。 ・週1回で月4回ペースでの実施、平日は夜間、週末は昼間の教室開催

	・外国人学習者の日本語レベルに合わせたグループ分けを行い、学習者が会話を楽しみながら基本的な日本語を実践・習得する場とした。 (2) ニーズ調査： 外国人学習者、外国人材雇用事業者等を対象にしたニーズ調査を実施。地域の外国人や外国人が就業する民間企業等が、日本語習得・日本語教室に対してどのような課題やニーズを有するのかを確認し、当教室運営にフィードバックした。 (3) 日本語教育人材発掘・研修 ・当地では、日本語教育の専門性を有する人材の確保は大変困難であり、地域の外国人支援に意識・関心を有する日本語サポーター（ボランティア）の協力が重要かつ不可欠。教室の充実を目的に、初年度に引き続き、新規サポーターを公募・登録した。 ・既存および新規のサポーターに対して研修を行い、スキルアップを図った。 (4) 他の日本語教室の見学および情報交換 ・近隣自治体（一関市、気仙沼市）の日本語教室を見学し、その取組から学びを得るとともに、お互いの教室運営等について情報交換した。 (5) 多文化共生、国際交流イベントの実施 ・在住外国人には地域の生活や文化を知り、また日本人には外国/外国人に関して理解を深めてもらうべく、当協会と日本語教室が連携して交流型のイベント（市内のお祭りや花火大会への参加、外国紹介イベント、防災セミナー等）を企画・実施した。			
事業の対象期間	令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月			
前年度の実績 （2 年目以降の団体のみ記載）	・本プログラム初（令和 5）年度は、コーディネーターを中心とした運営体制を構築し、日本語サポーターおよび外国人学習者を募集、その後試行としておおむね週 1 回のペースで日本語教室を開始した。併せて、他の日本語教室見学、国際交流イベント等を実施。 ・本事業下、令和 5 年 9 月以降で 28 回の教室開催 ・外国人学習者は平均 11 名、サポーターは同 9 名が参加			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	鍛田 伸利	陸前高田市	主査	全体監理
	ジャック ウッドキ一	同上	国際交流員	教室運営
	古谷 恵一	国際交流協会	協会員	全体監理（研修実施等）
	黒澤 郁江	同上	協会理事	教室運営（カリキュラム等）
	山本 健太	デジタル庁他		全体監理補佐
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	松岡 洋子	岩手大学	教授（副学長）	継続（2 年目）
	長尾 晴香	（一社）ViVarsity	代表理事	継続（2 年目）
	大泉 貴広	宮城県国際化協会	総括マネージャー	継続（2 年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制
(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
陸前高田市役所	観光交流課		
岩手県国際交流協会			佐々木コーディネーター、森屋コーディネーター、等
同上			藤波コーディネーター（研修講師）
近隣自治体国際交流協会			

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの 主な活動	アドバイザーによる 助言・指導
令和6年 4月	・教室実施（1, 8, 15, 21） ・年間計画検討	全体監理、教室運営 コーディネーター会議 サポーター会議	
令和6年 5月	・教室実施（7, 13, 19, 27） ・事業オリエンテーション ・アドバイザー会議	全体監理、教室運営 コーディネーター会議 国際交流協会三役会	アドバイザー会議（①新年度キックオフ会議、②アドバイザー内会議、③コーディネーターとの打合せ）
令和6年 6月	・教室実施（3, 10, 16, 24） ・サポーター研修 ・新規サポーター募集 ・釜石市国際交流課訪問（多文化共生への取組み等） ・ニーズ調査（市内企業への訪問ヒアリング等）	全体監理、教室運営 コーディネーター会議 サポーター研修検討 新規サポーター募集検討 学習者カルテ検討 ニーズ調査検討・実施	
令和6年 7月	・教室実施（1, 8, 16, 21） ・学習者カルテ導入 ・教室外活動 ・新規サポーター募集	全体監理、教室運営 コーディネーター会議 イベント関連調整 新規サポーター採用関連	
令和6年 8月	・教室実施（19, 26） ・サポーター研修（既存、新規） ・チーフアドバイザー来訪（市長との意見交換等）	全体監理、教室運営 新規サポーター受入れ調整 研修調整・実施	チーフアドバイザー来訪（多文化共生に係る市長との意見交換等）
令和6年 9月	・教室実施（2, 9, 17, 30） ・一関市日本語教室見学 ・教室外活動	全体監理、教室運営 他教室との連絡調整 イベント関連調整 国際交流協会三役会 中間報告対応	
令和6年 10月	・教室実施（7, 15, 21, 27） ・気仙沼市日本語教室見学 ・サポーター研修 ・教室外活動 ・庁内多文化共生勉強会	全体監理、教室運営 他教室 コーディネーター会議 研修調整・実施	チーフアドバイザー来訪（多文化共生に係る市役所幹部向け勉強会等）

令和 6 年 11 月	・ 教室実施 (5, 11, 18, 24) ・ サポーター研修 ・ アドバイザー教室視察	全体監理、教室運営 研修調整・実施 コーディネーター会議	アドバイザーの教室来訪 (教室視察及び意見交換・助言等)
令和 6 年 12 月	・ 教室実施 (2, 9, 16) ・ 実地調査及び教室視察対応 ・ 情報交換会 (東京) 参加	全体監理、教室運営 コーディネーター会議 実地調査準備等 情報交換会準備等	情報交換会の際にアドバイザーと意見交換等
令和 7 年 1 月	・ 教室実施 (14, 20, 27)	全体監理、教室運営 コーディネーター会議	
令和 7 年 2 月	・ 教室実施 (9, 17) ・ アドバイザー会議 ・ コーディネーター会議	全体監理、教室運営 アドバイザー会議準備 申請書作成・提出	アドバイザー会議 (今年度振返り+次年度方針等。なお、アドバイザー間で事前打合せを実施)
令和 7 年 3 月	・ 教室実施 (3, 10) ・ サポーター研修	全体監理、教室運営 最終報告書作成 研修調整・実施	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	陸前高田市国際交流協会						
外国人参加者について	令和 6 年度の参加者 合計 62 名（1 回のみの参加者も含む） 〔国籍〕 ベトナム 17 名、 ミャンマー 15 名、 カンボジア 9 名、 アメリカ 8 名、 香港 2 名、 フィリピン 2 名、 ベルギー 2 名、 カナダ 1 名、 タイ 1 名、 デンマーク 1 名、 台湾 1 名、 コロンビア 1 名、 イギリス 1 名、 ドイツ 1 名 〔属性〕 技能実習・特定技能 41 名（上記ベトナム、カンボジア、ミャンマー）、 技人国・教育（ALT 等） 9 名、 宗教 3 名、 残りは日本人の配偶者、留学生等						
参加者数 （内 外国人数）	学習者（登録者） 62 名（1 回当たり平均は約 13 名） 支援者（登録者） 24 名（1 回当たり平均は約 11 名） （サポーター 19 名、コーディネーター 5 名） 他の日本人参加者 28 名（サポーター登録をせず見学等で参加した者）						
開催時間数	総時間 60 時間			内訳 1.5 時間 × 40 回			
開催頻度	3～4 回/月						
目標	年間を通じて安定的に教室を継続開催する						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2024 年 4 月 1 日(月) 18：30～20：00	1.5	陸前高田 コミュニ ティホー ル	16	テキスト等を用いて、対話形式で基本的な日本語を実践・習得	・ 学習者のレベル別の小グループ編成 ・ 学習者とサポーターの対話により日本語を実践 ・ 結びで各グループから簡単な発表を行う ・ 以下、括弧内は補足	サポーター 10 名

2	2024年 4月8日(月) 18:30~20:00	1.5	同上	12	同上	同上	サポーター11名
3	2024年 4月15日 (月) 18:30~20:00	1.5	同上	16	同上	同上	サポーター9名 見学者1名
4	2024年 4月21日 (日) 14:30~16:00	1.5	同上	12	同上	同上	サポーター5名 見学者1名
5	2024年 5月7日(火) 18:30~20:00	1.5	同上	10	同上	同上	サポーター8名 見学者1名
6	2024年 5月13日 (月) 18:30~20:00	1.5	同上	13	同上	同上	サポーター9名 見学者3名
7	2024年 5月19日 (日) 14:30~16:00	1.5	同上	9	同上	同上	サポーター8名 見学者2名
8	2024年 5月27日 (月) 18:30~20:00	1.5	同上	12	同上	同上	サポーター10名 見学者2名
9	2024年 6月3日(月) 18:30~20:00	1.5	同上	11	同上	同上	サポーター9名 見学者2名
10	2024年 6月10日 (月) 18:30~20:00	1.5	同上	10	同上	同上	サポーター6名 見学者2名
11	2024年 6月16日 (日) 14:30~16:00	1.5	奇跡の一本松ホール	4	同上	同上	サポーター10名 見学者1名
12	2024年 6月24日 (月) 18:30~20:00	1.5	陸前高田コミュニティホール	17	同上	同上	サポーター10名 見学者8名
13	2024年 7月1日(月) 18:30~20:00	1.5	同上	14	同上	同上	サポーター9名 見学者4名

14	2024 年 7 月 8 日(月) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	14	同上	同上	サポーター7 名 見学者 8 名
15	2024 年 7 月 16 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	18	同上	同上	サポーター7 名 見学者 6 名
16	2024 年 7 月 21 日 (日) 14 : 30 ~ 16 : 00	1.5	同上	10	同上	同上 (ゲーム要素を取り 入れて陸前高田カルタを 実施)	サポーター8 名 見学者 3 名
17	2024 年 8 月 19 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	13	同上	同上	サポーター11 名
18	2024 年 8 月 26 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	17	同上	同上	サポーター13 名
19	2024 年 9 月 2 日(月) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	12	同上	同上	サポーター9 名
20	2024 年 9 月 9 日(月) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	11	同上	同上	サポーター11 名 見学者 1 名
21	2024 年 9 月 17 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	11	同上	同上	サポーター12 名
22	2024 年 9 月 30 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	18	同上	同上	サポーター12 名 見学者 1 名
23	2024 年 10 月 7 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	14	同上	同上	サポーター11 名
24	2024 年 10 月 15 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 00	1.5	同上	12	同上	同上	サポーター9 名 見学者 2 名

25	2024 年 10 月 21 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	17	同上	同上	サポーター 10 名 見学者 2 名
26	2024 年 10 月 27 日 (日) 14 : 30 ~16 : 00	1.5	同上	6	同上	同上 (参加はミャンマー 新規生であったため、自 己紹介すごろく中心に)	サポーター 8 名
27	2024 年 11 月 5 日 (火) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	10	同上	同上	サポーター 9 名
28	2024 年 11 月 11 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	15	同上	同上	サポーター 11 名 見学者 1 名
29	2024 年 11 月 18 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	10	同上	同上	サポーター 12 名 見学者 1 名
30	2024 年 11 月 24 日 (日) 14 : 30 ~16 : 00	1.5	同上	13	同上	同上 (ミャンマー新規生 は自己紹介すごろく、 JLPT 受験予定者には個別 の質問対応) (※アドバイザーによる 教室視察)	サポーター 12 名
31	2024 年 12 月 2 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	10	同上	同上 (※実地調査一行による 教室視察)	サポーター 14 名 見学者 1 名
32	2024 年 12 月 9 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	13	同上	同上	サポーター 11 名 見学者 3 名
33	2024 年 12 月 16 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	13	同上	同上 (JICA 海外協力隊帰国者 によるボリビアの日本語 学校紹介)	サポーター 11 名 見学者 3 名
34	2025 年 1 月 14 日 (火) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	12	同上	同上 (陸前高田カルタ実 施、年末年始の話題、 等)	サポーター 8 名 見学者 3 名
35	2025 年 1 月 20 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	10	同上	同上	サポーター 12 名

36	2025 年 1 月 27 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	14	同上	同上	サポーター12 名 見学者2名
37	2025 年 2 月 9 日(日) 14 : 30~16 : 00	1.5	同上	1	同上	同上 (※岩手県国際交流協会 による視察)	サポーター10 名 見学者2名
38	2025 年 2 月 17 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	同上	15	同上	同上	サポーター13 名 見学者1名
39	2025 年 3 月 3 日(月) 18 : 30~20 : 00	1.5	奇跡の一 本松ホー ル	11	同上	同上	サポーター9名 見学者1名
40	2025 年 3 月 10 日 (月) 18 : 30 ~20 : 00	1.5	市役所会 議室	10	同上	同上 (3.11 を踏まえて防 災をテーマとした)	サポーター11 名

【主な活動】



学習者のレベル毎のグループ分
けで教室を行う



当市のカルタを通じて地域文化
と日本語を楽しく学んだ



教室後の集合写真。当日は JICA
海外協力隊帰国者の方がゲスト

教室の立ち上げ に係る問題とそ の対応策	・コーディネーター間の認識共有、連携強化（⇒定期的にコーディネーター会議を実施し、都度、現状確認および課題解決等に当たった。） ・サポーターの育成、定着（⇒既存および新規のサポーターに対して、定期的にサポーター研修を実施し、能力向上とモチベーション維持向上を図った。） ・学習者の定着（⇒技能実習生等に関しては、教室運営に係る理解と支援を得るべく、所属企業と随時連携した。）
----------------------------	---

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
当協会主催「美味しく知ろう！フィリピン～食事&交流会～」 (協会経費)	令和6年10月6日 12:00～14:00	日本語教室に参加しているフィリピン人学習者を講師に、当協会員や市民にフィリピンの歴史や文化、国民性、日本との関係等について分かりやすく紹介した。日本語教室の学習者やサポーターも多数参加。国際交流や多文化共生に対する理解を深めた。
宮城県大崎市立日本語学校（設立準備中）視察訪問	令和6年11月28日 13:00～14:30	全国で2例目となる公立日本語学校（設立準備中）を訪問・見学し、設立の経緯、学校のコンセプト、同市の多文化共生への取組み等について説明を受け、意見交換したもの。本件は市役所観光交流課（＝国際交流協会事務局）の業務として実施した。
当協会主催「クリスマス交流会」 (協会経費)	令和6年12月15日 12:00～14:00	当協会が国際交流等を目的に毎年行う恒例の交流会。今年度は日本語教室学習者に参加を勧奨し、多数が参加、市民と交流した。また、学習者を含め、カンボジア人、ミャンマー人、フィリピン人等がダンスを披露し、参加者は各国の文化や伝統芸能について理解した。
岩手大学と当協会の共催による防災セミナー「避難所運営ゲーム HUG」 (協会経費)	令和7年2月2日 13:00～15:30	チーフアドバイザーの松岡教授（岩手大学）との連携企画により、陸前高田市民と外国人（岩大留学生、日本語教室学習者等）が交流しながら「防災」について体験学習した。当日は陸前高田市防災マイスターの協力を得て、避難所運営シミュレーション（HUG ゲーム）を行い、外国人避難者への対応等を含め、多文化共生の観点からも参加者同士で考えた。

【主な活動】



「美味しく知ろう！フィリピン～食事&交流会～」の文化紹介



「クリスマス交流会」外国人参加者によるダンス披露



防災セミナー「避難所運営ゲーム HUG」での各班発表の様子

5. 今年度事業全体について

進捗状況	・事業初年度（前年度）に引き続き、週1回ペース（夏期や年末年始を除く）で日本語教室を開催した。 ・その上で、教室の更なる充実を図るべく、サポーターの新規募集や企業・学習者へのヒアリング調査等を行い、また初年度からの継続として、サポーター向けの研修会を定期的開催した。 ・日本語学習のみならず、日本の（陸前高田の）文化に触れ、また国際交流する機会として、教室内外で各種イベントを実施した。
------	---

事業推進にあたり 問題点と対応策	・コーディネーター間の認識共有、連携強化（⇒定期的にコーディネーター会議を実施し、都度、現状確認および課題解決等に当たった。） ・サポーターの育成、定着（⇒既存および新規のサポーターに対して、定期的にサポーター研修を実施し、能力向上とモチベーション維持向上を図った。） ・学習者の定着（⇒技能実習生に関しては、教室運営に係る理解と支援を得るべく、所属企業と随時連携した。）
成果	今年度の主な成果（実績）は以下のとおり。 ・コーディネーターについて、今年度始めから5名体制に拡充。 ・教室は、基本的に週1回、平日夜間に1時間半実施。月1回は平日に替わり日曜実施。令和6年度は40回程開催。 ・毎回10～15名程の外国人学習者が参加。 ・サポーター登録者は21名。うち令和6年度の新規登録は8名で、当地域において多くの登録者を追加出来たことは大きな成果であった。教室には毎回8～10名程が参加。サポーターの一部は教室の事前準備等も実施。 ・サポーター研修6回実施。毎回10名程のサポーターが参加。 ・サポーターを交えた教室終了後の振り返り、学習者カルテの導入、日本語すごろく作成など、教室を充実させる施策を実施。 ・国際交流、多文化共生の観点でのイベント企画・実施、地域のイベントへの参加等 ・年間通じて、市民、学生、関連団体、市議などの見学者を多数受け入れ ・日本語教室 Facebook 運営
地域の関係者との 連携による効果	・近隣自治体（一関市、気仙沼市）の日本語教室を訪問し、教室冒頭の導入、教材の工夫、グループ分けの方法など、運営に関する様々な学びを得た。 ・岩手県国際交流協会の方々の視察を受け、教室運営等に関して情報交換、意見交換を行った。 ・JICA 東北のグローバルプログラム実習生（インターン生）を当協会で数ヵ月間受入れし、日本語サポーターとしての活動のみならず、コーディネーターと協働して教材開発、学習者へのヒアリング調査等を行った。
コーディネーター の 主な活動	1 ニーズの調査(20H) 2 体制整備のための調整(30H) 3 人材育成のための調整（研修等）(50H) 4 日本語教室開設及び運営のための調整(200H) 5 教材作成に向けた調整(5H) 6 その他(200H)（具体的な内容：計画策定、企画実施、関係者との連絡調整、事業に係る経費管理・各種報告、等） （※なお、上記項目には重複した内容・時間もある。）
アドバイザーの 主な助言	・コーディネーターや日本語サポーター（ボランティア）等の関係者が一つになれる教室のミッション（目指す姿）を考えて欲しい。 ・学習者のニーズの捉え方であるが、学習者のニーズに応えることが教室の目的ではなく、教室の目的（ミッション）が最初にあって、それに基づいて教室の中で実際に何に取り組むべきか、を検討すべき。 ・コーディネーターとサポーターとの役割を常に整理しておくべき。 ・事業終了後を見据え、教室の継続（体制、予算等）のために、行政等との連携を強化して欲しい。

今後の課題	・事業終了後を見据えて継続的な教室運営に取り組むこと（教室の定期的な開催、実施体制確保、学習者獲得、国際交流・多文化共生の拠点としての位置付け確立、等） ・日本語教室の継続実施に関する行政（陸前高田市）との協議・働きかけ（予算面など）
今後の予定	・週1回ペースでの教室の継続開催 ・サポーターの新規募集（支援者、協力者を広げる） ・サポーター研修実施 ・学習者の確保（企業等との連携） ・広報の強化（Facebookの活性化等） ・他の自治体、国際交流協会等との学び合い ・行政（市）との継続的なコミュニケーション（予算面など）

本件担当： 陸前高田市国際交流協会事務局（陸前高田市観光交流課）